

2017年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	吉例浮世絵大公開！江戸ノスタルジア			担当者名	学芸係 村瀬可奈			
会期	2017年3月11日(土)～4月9日(日)			開催日数	26日			
協賛・後援・協力	なし。							
巡回館	なし。							
展覧会概要	明治時代に描かれた浮世絵の中から、過ぎ去った「江戸」をテーマにした作品、約120点を展示。月岡芳年や楊洲周延らの描いた、記憶の中の江戸美人や四季折々の風俗、またかつては描くことのできなかつた江戸城や大奥の様子を紹介した。町田市立国際版画美術館が所蔵する3,000点を超える浮世絵を、広く紹介することを目的とした展覧会シリーズ「吉例浮世絵大公開！」の第二弾。							
ねらい・対象	近年、当館では、毎年1回のペースで継続的に浮世絵展を開催している。今展覧会は、これまでに展示される機会の少なかった作品や作者に光を当てることを目的とした。一般来場者を主な対象としつつ、広報印刷物では通常浮世絵展への来場が少ない若者向けのデザインを意識した。							
関連催事	催事名		開催日	タイトル		講師等		参加者数
	作品解説		3月26日(日)	館長によるスペシャルトーク		館長 村田哲朗		20人
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	600円	300円	300円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,061人	1,434人	4,495人	3,065人	1,236人	106人	88人	
	目標値		5,300人					
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	1,256千円		0千円		11千円		0千円	
事業経費	【主な展覧会開催経費】 ・ディスプレイ作成等業務委託料 476千円 ・作品額装委託料 632千円 ・展覧会ポスター等作成委託料 394千円 ・作品展示撤去委託料 272千円 ・ミュージアムグッズ作成委託料 44千円 ・広告宣伝委託料 90千円 <div style="text-align: right;">1,906千円</div>							
主な広報・取材等の講評	<取材>「毎日新聞」、イツ・コミュニケーションズ「地もトTVおかえり！TOKYO」、「ぱど」、「まちびと」等							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	238件	5.2%	39%	69%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
	97%	97%	86%					
	主なご意見	別紙のとおり。						

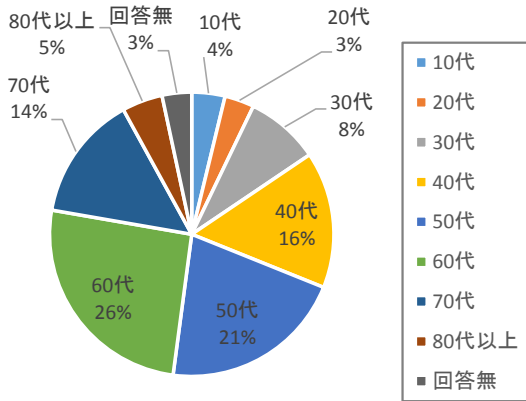
反省点と改善方法	予備調査	2016年11月頃より作品・文献調査を開始。収蔵品の基本情報の整理からはじめ、資料の収集や他館の展示調査等を行った。これまでに出品されたことのない作品が多かったため、作品調査と基本情報の整理に時間をかけるとともに、大半の作品に新たにマット装が必要であったため、2016年夏頃より行った。画中には様々な情報が描かれているため、展示のために出品作品1点ずつに短い作品解説を準備した。
	作品選択	当館でも数多く収蔵する明治浮世絵の中から、江戸時代をテーマにした作品を選定し、明治においていかに江戸懐古の風潮が高まっていたかを紹介した。具体的には、江戸時代の四季や人物、妖怪、江戸幕府や大奥の描かれた作品をテーマごとに章立てし、最後には「明治モダン」という章も設けた。
	図録作成	図録の作成はなかったが、会場にて作品リストを配布した。今回は日本語と英語の2種類を作成した。
	ディスプレイ	作品の判型がほぼ単一のため、可動壁や展示ケースを多用して変化をつけることを意識した。しかしながら、毎回の展覧会で同じような導線が続いてしまうため、今後導線の引き方を含めて展示方法を工夫したい。
	広報	2016年11月末よりポスター・チラシの作成業務を開始し、2017年1月よりプレスリリースの配布、ポスター・チラシの配布、市内バスの車内吊り広告等を順次行った。芹ヶ谷公園内の桜開花の時期とも重なるため、広報印刷物や看板類はピンクで統一した。結果として、さくらまつり関連の記事に取り上げてもらったことが多かった。
	イベント	館長によるスペシャルトークと学芸員によるギャラリートークを実施した。またイベントではないが、本展でも全点撮影可能とした。それに伴い注意書きのパネルや配布物を作成したが、シャッター音の大きさや歩きながらの撮影などの課題が浮上した。一方で好意的な声も多く、SNSでの写真の掲載も多くみられたため、一定の作品のみ撮影可とするなど、試行錯誤をしながら続けていきたい。
その他特記事項	前年度開催の「諷刺画って面白い？」展から試行的に開始した展示室内での作品の写真撮影を可能とすることを本展においても試みた。観覧者の反応としては、喜ばれる声も多く、SNS上で展示室内の画像が拡散される様子もみられた。一方で、撮影音に関する苦情も多く、今後は点数等を限定したうえで撮影可能とするなど、対策を考える必要がある。 また、出展作品リストを日本語版に加えて英語版を用意し、外国人への対応を考慮した。	

「吉例浮世絵大公開！江戸ノスタルジア」展
アンケート集計結果

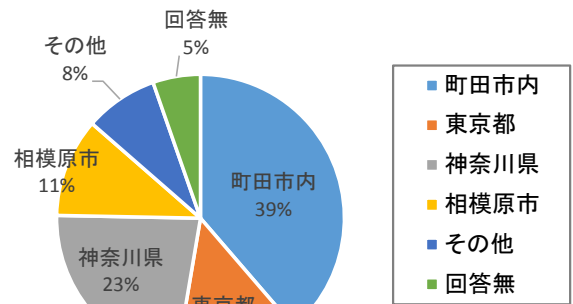
開催期間：2017年3月11日（土）～4月9日（日）

回答者数：238人（総入館者数：4,495人 アンケート回収率：5.2%）

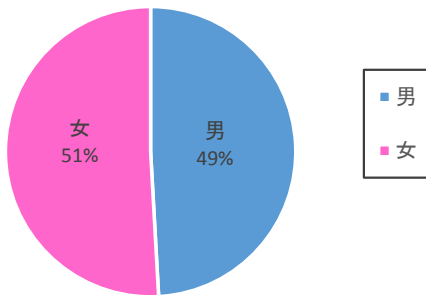
① 年齢層



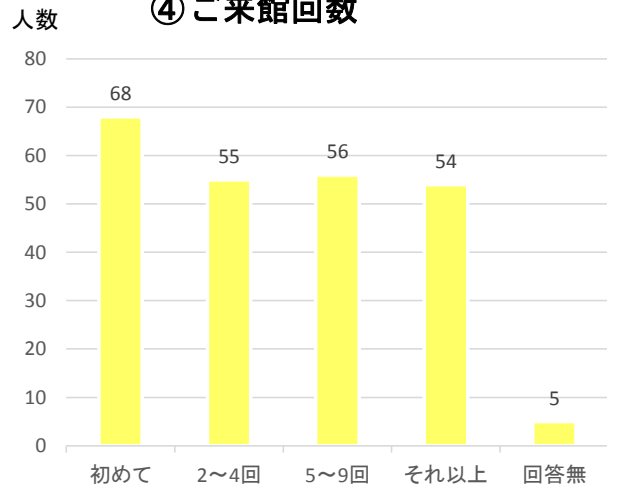
② お住まい



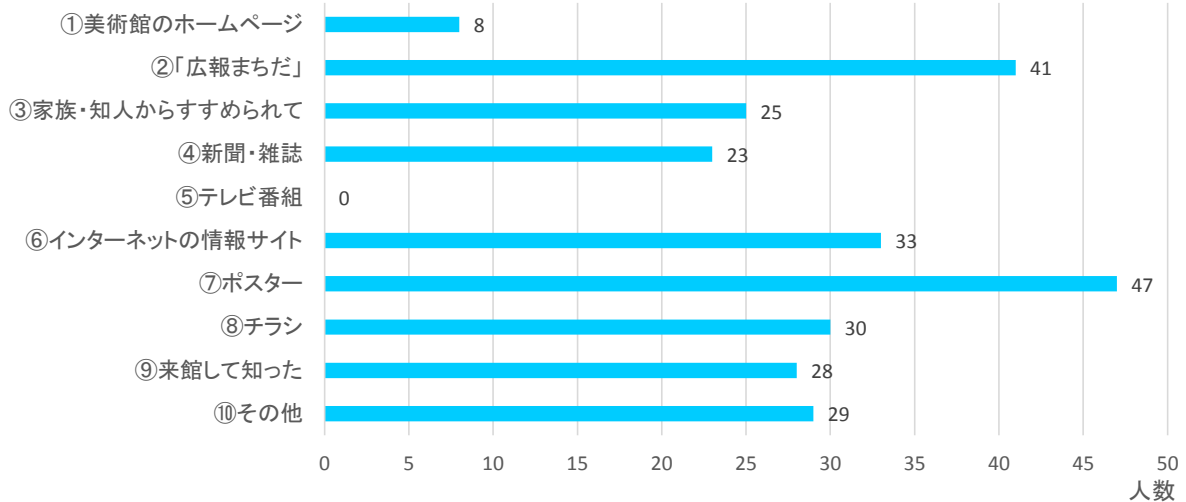
③ 性別



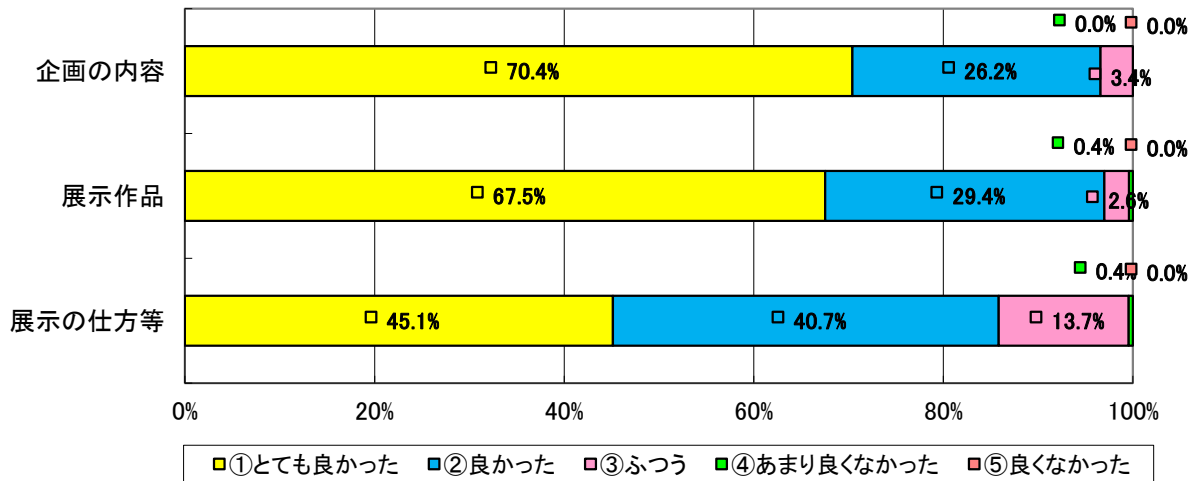
④ ご来館回数



⑤ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆当時の日本人の生活、心境がよくわかった。◆楊洲周延が沢山見られてとてもよかった。きれいだった。◆一点一点きちんと簡潔に説明がわかりやすい。◆近くで繊細な摺り色までよく見られて嬉しかった。◆順路の案内がわかりやすくてよかった。◆ギャラリートークに参加してより理解が深まった。◆日本が色彩の国だということが再認識された。◆いつも珍しいものを見せて頂きありがたい。◆たまたま通りかかってみたが、とても楽しめた。◆アンティーク着物ブームや朝ドラの影響もあり、この時代にとっても興味を持てた。◆今後も浮世絵の企画展を続けて欲しい。

◆撮影不可が多い中、可能なのが嬉しかった。◆拡大鏡はとてもよい、心遣いが嬉しい。受付や館内スタッフの対応が素晴らしく、気持ちよく観覧できた。

◆イヤホンガイドがあると良い。◆広報活動が地味。◆トイレは洋式でウォシュレットにすべし。◆大きい声でしゃべっている人たちが多かった。◆シャッター音が気になる。◆収蔵作品をデジタル化していつでも見られるようにしてほしい。

来館者の年齢層をみると、昨年度の「清親—光線画の向こうに」展と同じく60代から70代がもっとも多いが、今回は30～50代の割合が増えた。若い年齢層への広報活動については引き続き課題としたい。満足度は概ね高く、浮世絵展ということで、色彩の鮮やかさや保存状態の良さを称賛する声が多かった。また一点ずつに短い解説をつけたことも高評価であった。

展覧会情報の入手先としては、ポスター・チラシ、広報まちだなどの紙媒体が多かった。毎日新聞や朝日新聞など、新聞雑誌を見て来館したという声が多くみられた。ただ、アンケートではより広範囲にポスター・チラシを設置してほしいという声もあったため、今後は所蔵品においても広報活動のあり方を検討し、より多くの人に来館してもらえるよう、力を入れていきたい。

本展では全点撮影可能としたため喜ばれる声も多く、SNS上で展示室内の画像が拡散される様子もみられた。一方で、撮影音に関する苦情も多く、今後は点数等を限定したうえで撮影可能とするなど、対策を考えたい。